

評価作業マニュアルの改定に当たり検討すべき事項について（案） （ワーキンググループ検討状況）

1. 特定の取組・計画等の評価方法について

- 実績報告書に、新たに「個性の伸長に向けた取組」及び「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」の記載欄を設けたが、それらに記載された取組について、具体的にどのように評価するか。
- 「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（平成23年10月27日 国立大学法人評価委員会決定）において定められている、戦略性が高く意欲的な目標・計画等に対する評価、世界的な高水準の達成や国際的な競争力の向上を目指す観点からの評価について、具体的にどのように評価するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】

- 中期目標の達成状況評価は、国立大学法人等の特徴及び個性の伸長に向けた取組を捉えた上で行うこととされており、新たに「個性の伸長に向けた取組」欄を設けたが、より各法人の個性の伸長に寄与する評価とするために、どのような評価方法が考えられるか。
- 東日本大震災からの復旧・復興への貢献・支援活動等について、新たに「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄を設け、顕著な取組が見られると判断される場合には特記することとされているが、具体的にどのように評価するか。また、その他にどのような評価方法が考えられるか。
- 「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（平成23年10月27日 国立大学法人評価委員会決定）において、「各法人の質的向上を促す観点から、戦略性が高く意欲的な目標・計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。」と定められているが、どのような評価方法が考えられるか。
- 大学評価・学位授与機構が行う評価について、「教育研究の特性を踏まえつつ、各法人の目的によっては、教育研究の成果が、世界的な高水準の達成や国際的な競争力の向上を目指す観点から、適正に評価するよう配慮する。」と定められているが、どのような評価方法が考えられるか。

2. 学部・研究科等の現況分析結果の活用方法について

- 中期目標の達成状況評価において、学部・研究科等の現況分析結果を活用することとされているが、具体的にどのように活用するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】

- 「教育研究等の質の向上」に係る中期目標の達成状況評価は、学部・研究科等の教育研究の水準及び質の向上度の評価結果を十分に活用しつつ行うこととされているが、どのような活用方法が考えられるか。

3. 研究業績の水準判定について

- 「重点的に取り組む領域に係る研究業績の分析」の廃止や検証アンケートにおける研究業績水準判定結果の反映方法に対する法人からの意見等を踏まえ、研究業績水準判定結果を具体的にどのように反映させるか。
また、各分野ごとの判定基準の明確化についてどのように対応するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】

- 研究業績の水準の把握が必要な場合、研究業績水準判定組織での研究業績の水準判定結果を参考にして評価を行うこととされているが、「重点的に取り組む領域に係る研究業績の分析」の廃止等を踏まえ、どのような反映方法が考えられるか。

【学部・研究科等の現況分析】

- 検証アンケートにおいて、複数の法人が、研究業績水準判定の結果が現況分析の評価結果にどのように反映されたかが不明と考えており、より分かりやすく示すために、どのような反映方法が考えられるか。
- 「実績報告書作成要領」において、各分野横断的な「SS 及び S」の判定基準を示すこととしたが、各分野ごとの「SS 及び S」の判定基準の明確化についてどのように対応するか。

4. 評価結果と公表・通知事項について

- より個性の伸長に寄与する評価とするためや、より改善に資する評価とするために、また、社会、法人への説明責任を果たすために、評価結果の記載内容や社会への公表事項、法人への通知事項を見直す必要がないか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】【学部・研究科等の現況分析】

- 検証アンケートにおいて、複数の法人・評価者が評価結果を分かりやすく示してほしいと考えているため、社会や法人からの期待に応える評価結果の記載について、どのような内容が考えられるか。
- 社会、法人への説明責任を果たすために、社会への公表事項及び法人への通知事項の具体的な内容についてどのように考えるか。

5. 大学ポートレート（仮称）の活用方法について

- より効率的に評価を実施するために、大学ポートレート（仮称）を具体的にどのように活用するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】【学部・研究科等の現況分析】

- より効率的に評価を実施するために、どのような指標やデータ項目をどのように評価に活用するか。
- 検証アンケートにおいて、複数の法人が大学情報データベースの活用方法が不明確であったと考えているため、より分かりやすく示す必要がないか。

6. 認証評価結果の活用方法について

- より効率的に評価を実施するために、認証評価結果や提出資料・データ等を具体的にどのように活用するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】【学部・研究科等の現況分析】

- より効率的に評価を実施するために、認証評価結果や提出資料・データ等を具体的にどのように活用するか。

7. 質の向上度の評価方法について

- 質の向上度の評価について、期末間の状況の比較方法、提出がなかった場合の対応、注目すべき質の向上の指摘基準等について、具体的にどのように対応するか。

《論 点》

【学部・研究科等の現況分析】

- 質の向上度の判定は、第1期中期目標期間末の状況と第2期中期目標期間末の状況とを比較し、行うこととされているが、どのように比較するか。
- 重要な質の変化があったと判断されず、質の向上度について、現況調査表の提出がなかった場合、どのように評価するか。
- 注目すべき質の向上の指摘を行うこととされているが、どのような基準で指摘するか。

8. 中期計画の段階判定区分の判定基準、特記事項の抽出基準について

- 中期計画の段階判定区分の判定基準、特記事項の抽出基準について、具体的にどのように対応するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】

- 中期計画の段階判定区分の判定基準、特記事項の抽出基準について、具体的にどのように対応するか。

9. 積み上げ方式の計算方法について

- 積み上げ方式の計算方法について、具体的にどのように設定するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】【学部・研究科等の現況分析】

- 積み上げ方式の計算方法について、具体的にどのように設定するか。

10. ヒアリング等の手続きについて

- ヒアリング、確認事項の問い合わせ、追加資料の提出の手続きについて、具体的にどのように対応するか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】

- ヒアリング（必須確認事項の設定、確認事項の基準、訪問調査との区別等）、追加資料の依頼（依頼の基準等）の手続きについて、具体的にどのように対応するか。

【学部・研究科等の現況分析】

- 確認事項の問い合わせ（問い合わせの基準等）、追加資料の依頼（依頼の基準等）の手続きについて、具体的にどのように対応するか。

11. 評価実施体制について

- 効率的に評価を実施するために、評価実施体制について見直す必要があるか。

《論 点》

【中期目標の達成状況評価】【学部・研究科等の現況分析】

- 効率的に評価を実施するために、評価実施体制について見直す必要があるか。